

目 次

巻頭言

目黒順一

各部門報告

主要論文(2004年)

- ・CD34 陽性細胞移植による四肢血管の再生 . 川村明夫 , 他 . 循環器科 56: 361-367, 2004.
- ・肝不全よりの進展 . 米川元樹 , 他 . 日本アフェシス学会雑誌 23: 34-41, 2004.
- ・CAPD 症例における腹膜生検部位別病理組織変化の違い . 久木田和丘 , 他 . 日本透析医学会雑誌 37: 1411-1416, 2004.
- ・肝がんの凍結治療 . 玉置透 , 他 . Clinical Engineering 15: 859-868, 2004
- ・透析患者における末梢血幹細胞 (CD34 陽性細胞) を用いた血管再生治療 . 堀江卓 , 他 . Medical Science Digest 30: 2-3, 2004.
- ・パーキットリンパ腫 . 笠井正晴 , 他 . 最新医学 59: 1213-1220, 2004
- ・抗 HLA 抗体による輸血関連急性肺障害 (Transfusion-Related Acute Lung Injury, RALI) を発症した胃癌合併骨髄異形成性症候群 . 重松明男 , 他 . 日本輸血学会雑誌 50: 720-725, 2005.
- ・Mediastinal emphysema and bilateral pneumothoraces with chronic GVHD in patients after allogeneic stem cell transplantation. Toubai T, et al. Bone Marrow Transplantation 33: 1159-1163, 2004.
- ・血液透析患者における HCV 感染 . 露口雅子 , 他 . 日本臨床 62(増刊 7): 319-322, 2004
- ・局所麻酔下胸腔鏡 - 歴史と未来 - . 本田哲史 . 気管支学 26: 315-321, 2004.
- ・透析症例の全身麻酔下における下肢非観血的血圧測定値の信頼性に関する検討 . 沼澤理絵 , 他 . 日本臨床麻酔学会誌 24: 586-592, 2004.

学会発表

国際学会発表(2004年)

全国学会発表(平成16年)

地方会発表(平成16年)

発表論文

邦文(平成16年)

英文(2004年)

主催学会報告

講演会・研究会報告

編集後記

笠井正晴

巻 頭 言

特定医療法人北榆会 札幌北榆病院

副院長 目黒順一

これまで理事長と院長が交替で綴ってきた巻頭言を、今回初めて任された。過去の内容を振り返るといずれも力作であり、長く記録として残っても、後世の評価に充分耐えられるものである。自分にそんな力量があるとは思えないが、受諾した以上は批判、非難等を覚悟の上で書いてみる事にした。そこでテーマを何にしようかと考えたが、なかなかアイデアが浮かばない。畑違いの事を書きたかったのだが、医者の子組みを超えるような生活をしてこなかったので、たいした蘊蓄もない。結局、医療に関係した事柄について書いてみようと思う。

大きくは『役割分担』とでもしておく。

1) 病院の役割分担

これまでの病院は、急性期から回復期、時には慢性期まで同じ病院あるいは同じ病室で入院治療することが普通であった。いわゆる一病院完結型医療である。しかし、厚生労働省は、かねてより診療機関の機能分化を考えており、既に28年前に「病院の体系を中長期的に一般病院と慢性病院に区分する」ことを打ち出していた。これは医療機関の役割を分けて、地域全体で医療を行う「地域完結型医療」を目指すものであった。そこで、4年前の第4次医療法改正で一般病床(急性期病床)と療養病床(慢性期病床)に分けて、この中間に診療報酬上の回復期病床を設定した。この背景には(1)医学の急速な進歩により、高度な医療や先進的な医療が発展・普及、(2)高齢化により長期にわたる療養が必要な患者の増加、(3)在宅医療を支える社会システムの発展(介護保険制度等)、(4)リハビリテーション体制の充実・発展などがある。

この機能分担を円滑に行うには、医療機関の関係者はもとより、患者の意識も変わって行く必要がある。病院と病院、あるいは病院とかかりつけ医との連携をどのように実現するかは、単に「連携」をお題目の様に繰り返しても無意味である。現在、札幌市内でも地域医療連携室を設置している施設は多いが、この目的を十分に実現している施設は殆ど皆無といって良い。札幌市医師会も、数年前から地域完結型医療の実現のために、医療連携システムの構築を目指した委員会を立ち上げて討議を重ねているが、急性期から慢性期への橋渡しが困難な場合が多く、インターネットを利用したシステムも検討課題に上っている。

当院も急性期医療をになう施設として、施設やシステムを更に充実させるように努力しているが、平均在院日数の削減圧力が次第に強まる中、急性期を乗り切った患者の転院先の確保に苦慮している。今後とも開成病院や慢性期の医療を担っている医療施設、個人開業の諸先生など、地域の医療機関との一層の連携を図って行きたい。関係各位の深いご理解とご協力をお願いしたい。

2) 医師の役割分担

時代劇の“赤ひげ先生”の例を引くまでもなく、昔の医者は何にでも手を出したし、出すのが当たり前であった。それが現代では全く通用しなくなってしまった。医学・医療技術の急速な進歩と、知識の急激な増加のせいである。医師一人では到底こなせない時代になってしまった。また、社会的要請として、専門的な知識や医療技術を要求する時代になった。更に、情報開示により、市民一人一人の知識も、意識も変わって行った。その結果、医療訴訟も増加の一途を辿っている。そのこと自体は間違いではない。我々医者も彼等の要求と期待に応えるために、生涯教育と云う勉強をしているし、自分の専門分野の知識と技術を磨く努力をしている。しかし、何でもそうだが、極端に走ると必ずその弊害が現れるものである。いわゆる“専門バカ”である。患者は心も感情もある。しかも複数の疾患を患っている事も多い。「木を見て森を見ない」ことによる不満が患者サイドに生まれる。

そんなことから、医療の世界で反省が生まれ、専門外来を作る流れと共に、総合診療科が大学で一つの講座として設置されるようになった。また、日本の医学教育のカリキュラムも見直され、学生時代から人間に接する機会を増やすようになった。更に、自分の専門科目を決める前に色々な診療科を回って、少しでも人間全体を把握出来る能力を付けるために、昨年度から新医師臨床研修制度が走り出した。まだまだ問題は多いが、とても良いことだと思う。

これからの医師は、専門的治療を行う者、家庭医となる者、総合的に診てトリアージを行う者など、役割分担が更に明確になるであろう。更に、年をとったら、豊富な臨床経験や人生経験を生かして、(慢性期の)老人医療に加わる者も必要であろう。そんな時こそ、医療施設のみならず、医者、コ・メディカル、地域社会の連携が決め手となる。その日のためにも、世界中から高く評価されながらも危機的状況に追い込まれつつある日本の医療制度を守って行く必要がある。今こそ、医療関係者も患者も、何が大切なのかを問われている。

とりとめの無いことを書いてしまったが、民間の医療機関と言えども、臨床と研究、そして研修制度の開始により教育も行わねばならない時代が到来した。我々も地域の中核病院として発展を遂げるために、地域住民や地域の医師、さらには研修医にも信頼されるように、一層の努力を重ねたいと思う。

·XXXI Annual Congress of the European Society for Artificial Organs (September 8-11, 2004 =
Warsaw, Poland)

Preventing limbs amputation in dialysis patients with ischemic foot ulcers by peripheral blood stem cell
(PBSC) implantation

Dept. of Surgery, Sapporo Hokuyu Hospital

A. Kawamura, T. Horie, I. Tsuda,
E. Imamura, A. Ikeda, H. Egawa,
H. Sakata, T. Tamaki, J. Meguro,
K. Kukita, M. Yonekawa

No-needle blood access device for chronic dialysis (United States Pat. 6231541)

Research Institute for Artificial Organs, Transplantation & Gene Therapy

A. Kawamura, J. Iida, A. Ikeda,
H. Egawa, I. Tsuda, H. Sakata,
T. Horie, T. Tamaki, J. Meguro,
K. Kukita, M. Yonekawa
H. Matsumoto

Sinthemec Co. Ltd.

·The American Society of Hematology, 46th Annual Meeting (December 4-7, 2004 =
San Diego, USA)

CCL19 and CCL21 chemokines induce endocytosis and augment antigen presentation in human mature
dendritic cells

Dept. of Int. Med, Sapporo Hokuyu Hospital

M. Ogasawara, M. Kasai

Dept. of Hematol & Oncol., Hokkaido Univ.

J. Tanaka, M. Imamura

全国学会

平成 16 年

- ・第 19 回体液・代謝管理研究会(平成 16 年 1 月 24 日 = 東京)

維持透析患者周術期循環血液量の変化

札幌北榆病院 麻酔科

開成病院 麻酔科

中尾 康夫, 沼澤 理絵

白崎 修一

- ・第 18 回心臓血管外科ウインターセミナー(平成 16 年 1 月 28 ~ 30 日 = 湯沢)

特別企画 Meet the Expert

札幌北榆病院 外科

川村 明夫

- ・第 37 回日本臨床腎移植学会(平成 16 年 1 月 28 ~ 30 日 = 松島)

後腹膜鏡視補助下ドナー腎摘出術の成績

札幌北榆病院 外科

玉置 透, 池田 篤, 今村 恵美,

江川 宏寿, 飯田 潤一, 津田 一郎,

堀江 卓, 坂田 博美, 久木田和丘,

目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

子宮頸がん (CIS) 術後に肺肝再発をきたした生体腎移植症例

札幌北榆病院 外科

池田 篤, 玉置 透, 江川 宏寿,

今村 恵美, 飯田 潤一, 津田 一郎,

坂田 博美, 堀江 卓, 久木田和丘,

目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

腹部手術を繰り返した腎再移植症例

札幌北榆病院 外科

江川 宏寿, 玉置 透, 池田 篤,

今村 恵美, 飯田 潤一, 津田 一郎,

坂田 博美, 堀江 卓, 久木田和丘,

目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

生体腎移植後の自己管理の重要性 一症例を振り返って

札幌北榆病院 第 6 病棟

木浪 千春, 宇山 文子, 野村 夏音,

武田あゆみ, 北村美奈子, 栗坪 睦子

- ・再生医療技術を用いた循環器疾患に対する組織移植および血管新生に関する研究 最終報告会

(平成 16 年 2 月 7 日 = 大阪)

札幌北榆病院における血管再生医療

札幌北榆病院 外科

堀江 卓, 今村 恵美, 江川 宏寿,

池田 篤, 津田 一郎, 飯田 潤一,

坂田 博美, 玉置 透, 久木田和丘,

目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

・第9回ブラッドアクセスインターベンション治療研究会(平成16年3月6日=東京)

ステント留置と外腸骨静脈狭窄からの考察

札幌北榆病院 外科

久木田和丘, 今村 恵美, 江川 宏寿,
池田 篤, 津田 一郎, 飯田 潤一,
堀江 卓, 坂田 博美, 玉置 透,
目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

・第19回ハイパフォーマンス・メンブレン/次世代人工腎研究会(平成16年3月13,14日=東京)

(シンポジウム)血液透析患者における血管再生治療

札幌北榆病院 外科

堀江 卓, 今村 恵美, 江川 宏寿,
池田 篤, 津田 一郎, 飯田 潤一,
坂田 博美, 玉置 透, 久木田和丘,
目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

・第104回日本外科学会定期学術集会(平成16年4月7~9日=大阪)

(パネルディスカッション)末梢血幹細胞(CD34陽性細胞)を用いた血管再生治療

札幌北榆病院 外科

堀江 卓, 今村 恵美, 江川 宏寿,
池田 篤, 津田 一郎, 飯田 潤一,
坂田 博美, 玉置 透, 久木田和丘,
目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

ラット肝虚血再灌流傷害に対する atrial natriuretic peptide (ANP)とその analog の効果

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所

池田 篤, 玉置 透, 江川 宏寿,
川村 明夫

・第90回日本消化器病学会総会(平成16年4月21~23日=仙台)

TS-1/CPT-11 併用療法が奏功し治癒切除が可能となった2例

札幌北榆病院 消化器科

川村 直之, 桂田 武彦, 露口 雅子,
大泉 弘子, 斎藤 雅雄
小松 嘉人, 浅香 正博

北大 第三内科

・日本医工学治療学会第20回学術大会(平成16年4月21~23日=広島)

(シンポジウム)非バイオ人工肝臓の現状と将来展望

札幌北榆病院 外科

目黒 順一

シャッター型ダブルルーメンカテーテルの簡素化

札幌北榆病院 外科

久木田和丘, 今村 恵美, 江川 宏寿,
池田 篤, 飯田 潤一, 坂田 博美,
堀江 卓, 玉置 透, 目黒 順一,
米川 元樹, 川村 明夫

ヘパリン使用下での白血球除去療法(LACP)施行時における回路内凝固の予防・予測に対する検討

札幌北榆病院 技士科	土濃塚広樹
札幌北榆病院 消化器科	桂田 武彦, 斎藤 雅雄
札幌北榆病院 外科	米川 元樹, 川村 明夫

・第 67 回日本消化器内視鏡学会総会(平成 16 年 5 月 26 ~ 28 日 = 京都)

造血幹細胞移植後に大腸に発症した移植後Bリンパ球増殖性疾患の1例

札幌北榆病院 消化器科	大泉 弘子, 桂田 武彦, 露口 雅子,
	川村 直之, 斎藤 雅雄
札幌北榆病院 血液内科	今井 陽俊, 笠井 正晴

・第 21 回日本呼吸器外科学会総会(平成 16 年 5 月 27 ~ 29 日 = 横浜)

慢性肺気腫症・気腫性嚢胞性肺疾患の診断治療における肺3D画像の有用性

札幌北榆病院 呼吸器科	本田 哲史
-------------	-------

・日本麻酔科学会第 51 回学術集会(平成 16 年 5 月 27 ~ 29 日 = 名古屋)

維持透析患者開腹手術周術期の問題点

札幌北榆病院 麻酔科	中尾 康夫, 沼澤 理絵
------------	--------------

・第 49 回日本透析医学会学術集会・総会(平成 16 年 6 月 18 ~ 20 日 = 神戸)

(コンセンサスカンファレンス)カテーテル留置法

札幌北榆病院 外科	久木田和丘, 玉置 透, 米川 元樹,
	川村 明夫

(ワークショップ)腎移植における透析施設の関わり - 移植施設としての関わり -

札幌北榆病院 外科	玉置 透, 久木田和丘, 目黒 順一,
	川村 明夫

透析患者における末梢血幹細胞(CD34 陽性細胞)を用いた血管再生治療

札幌北榆病院 外科	堀江 卓, 今村 恵美, 江川 宏寿,
	池田 篤, 津田 一郎, 飯田 潤一,
	坂田 博美, 玉置 透, 久木田和丘,
	目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

塩酸セベラマーの骨代謝への影響

札幌北榆病院 外科	坂田 博美, 久木田和丘, 江川 宏寿,
	池田 篤, 津田 一郎, 飯田 潤一,
	堀江 卓, 玉置 透, 目黒 順一,
	米川 元樹, 川村 明夫

血液透析患者の高リン血症に対する塩酸セベラマー投与の検討

札幌北榆病院 外科	坂田 博美, 津田 一郎, 久木田和丘,
	今村 恵美, 池田 篤, 江川 宏寿,
	堀江 卓, 玉置 透, 目黒 順一,

米川 元樹,川村 明夫

副甲状腺摘出後,低PTH血症持続症例の骨折治癒経過
札幌北榆病院 外科

江川 宏寿,久木田和丘,今村 恵美,
池田 篤,津田 一郎,飯田 潤一,
坂田 博美,堀江 卓,玉置 透,
目黒 順一,米川 元樹,川村 明夫

透析膜の違いによるグルコアルブミン値の検討
札幌北榆病院

沼澤 理絵,久木田和丘,中尾 康夫,
米川 元樹,川村 明夫

当院におけるリスクマネジメントの取り組み
札幌北榆病院 人工臓器治療センター

大西 史浩,木村 剛,阿部 博,
久木田和丘,米川 元樹,川村 明夫

入院患者に対する病室血液透析の検討
開成病院 外科
札幌北榆病院 外科

古井 秀典,大野 正博,高田 尚幸
久木田和丘,坂田 博美,米川 元樹,
川村 明夫

・平成 16 年度厚生労働科学研究ヒトゲノム・再生医療等研究事業「骨髄等を利用した効率的な造血幹細胞移植の運用・登録と臨床試験体制の確立に関する研究」班 第 1 回班会議(平成 16 年 6 月 19 日 = 名古屋)

健康人ドナーアフェレーシスの安全性に関する検討
札幌北榆病院 内科

小林 直樹,笠井 正晴

・第 52 回日本輸血学会総会(平成 16 年 6 月 23 ~ 25 日 = 札幌)
輸血に伴う呼吸器系有害事象の検討

札幌北榆病院 内科

木山 善雄,米積 昌克,今井 陽俊,
笠井 正晴

札幌北榆病院 検査科・輸血部

千野 瞳,三浦 玲子

札幌北榆病院における血小板輸血製剤使用の検討

札幌北榆病院 検査科・輸血部

三浦 玲子,千野 瞳

札幌北榆病院 内科

木山 善雄,米積 昌克,今井 陽俊,
笠井 正晴

・第 40 回日本肝癌研究会(平成 16 年 6 月 24, 25 日 = つくば)

肝腫瘍に凍結手術をはじめとした集学的治療が有効と考えられた二例

札幌北榆病院 外科

目黒 順一,今村 恵美,江川 宏寿,
池田 篤,津田 一郎,飯田 潤一,
坂田 博美,堀江 卓,玉置 透,
久木田和丘,米川 元樹,川村 明夫

・第13回腎不全外科研究会(平成16年7月9,10日=和歌山)

ヘパリンコーティングカテーテルの残存ヘパリン活性

札幌北榆病院 外科

久木田和丘,本望 聡,安部 美寛,
江川 宏寿,池田 篤,津田 一郎,
飯田 潤一,坂田 博美,堀江 卓,
玉置 透,目黒 順一,米川 元樹,
川村 明夫

ピオボンド®を使用した人工血管血清腫の長期予後

札幌北榆病院 外科

津田 一郎,久木田和丘,本望 聡,
安部 美寛,江川 宏寿,池田 篤,
飯田 潤一,坂田 博美,堀江 卓,
玉置 透,目黒 順一,米川 元樹,
川村 明夫

・第10回 Double Transplant 研究会(平成16年7月10日=福岡)

同種移植後の救援療法として施行した非血縁者間臍帯血移植症例の検討

札幌北榆病院 内科

賀川久美子,小林孝一郎,杉田 純一,
米積 昌克,豊島 経康,今井 陽俊,
小林 直樹,小笠原正浩,木山 善雄,
笠井 正晴

・心血管再生治療フォーラム2004(平成16年7月12日=東京)

末梢血幹細胞による血管再生治療

札幌北榆病院 外科

堀江 卓

・第11回日本血液代替物学会年次大会(平成16年7月13,14日=札幌)

(大会長講演)血液代替物の臨床利用を目指して

札幌北榆病院 外科

川村 明夫

・第20回日本人工臓器学会教育セミナー(平成16年7月17~18日=東京)

(講演)アフエレーシス療法

札幌北榆病院 外科

米川 元樹

・第40回日本移植学会総会(平成16年9月16~18日=岡山)

L-Carnitineの肝虚血再灌流傷害に対する効果

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所

昭和大学 第二外科

江川 宏寿,玉置 透,池田 篤,
坂田 博美,川村 明夫
草野 満夫

腎移植 high risk 症例に対する immunomodulation とその効果

札幌北榆病院 外科

池田 篤, 玉置 透, 坂田 博美,
堀江 卓, 久木田和丘, 目黒 順一,
米川 元樹, 川村 明夫

・第 15 回日本急性血液浄化学会学術集会(平成 16 年 9 月 17, 18 日 = 名古屋)

(特別講演)ブラッドアクセスの開発

札幌北榆病院 外科

川村 明夫

急性血液浄化における期待される臨床工学技士の役割とは

札幌北榆病院 臨床工学技士科

土濃塚広樹

札幌北榆病院 外科

久木田和丘, 米川 元樹, 川村 明夫

・第 66 回日本血液学会総会・第 46 回日本臨床血液学会総会(平成 16 年 9 月 17 ~ 19 日 = 京都)

造血管悪性腫瘍における Survivin の過剰発現と Survivin peptide を用いた抗 Survivin CTL の誘導

札幌北榆病院 内科

小笠原正浩, 小林孝一郎, 杉田 純一,
賀川久美子, 米積 昌克, 豊島 経康,
今井 陽俊, 小林 直樹, 木山 善雄,
笠井 正晴

非血縁者間臍帯血ミニ移植後に Bリンパ球増殖性疾患及び胃前庭部毛細血管拡張症を合併した ALL の一例

札幌北榆病院 内科

今井 陽俊, 小林孝一郎, 杉田 純一,
賀川久美子, 米積 昌克, 豊島 経康,
小林 直樹, 小笠原正浩, 木山 善雄,
笠井 正晴

同種末梢血幹細胞移植時の幹細胞凍結保存に関する検討

札幌北榆病院 内科

杉田 純一, 小林孝一郎, 賀川久美子,
米積 昌克, 豊島 経康, 今井 陽俊,
小林 直樹, 小笠原正浩, 木山 善雄,
笠井 正晴

・第 8 回アクセス研究会(平成 16 年 10 月 2 日 = 大阪)

(ワークショップ)カテーテル感染症とその対策

札幌北榆病院 外科

久木田和丘

・第 42 回日本人工臓器学会大会(平成 16 年 10 月 5 ~ 7 日 = 東京)

(パネルディスカッション)人工肝補助治療の現況と課題

札幌北榆病院 外科

米川 元樹, 目黒 順一, 川村 明夫

(パネルディスカッション) 留置カテーテルと感染

札幌北榆病院 外科

久木田和丘, 堀江 卓, 米川 元樹,
本望 聡, 安部 美寛, 江川 宏寿,
池田 篤, 津田 一郎, 飯田 潤一,
坂田 博美, 玉置 透, 目黒 順一,
川村 明夫

血液透析用非穿刺型ブラッドアクセスの開発

札幌北榆病院 外科

川村 明夫, 飯田 潤一, 池田 篤,
江川 宏寿, 津田 一郎, 坂田 博美,
堀江 卓, 玉置 透, 目黒 順一,
久木田和丘, 米川 元樹

(株)シンセミック

日本科学技術振興財団

松本 秀春

西本 裕美

末梢血幹細胞移植によるイヌ虚血肢の血管再生

札幌北榆病院 外科

津田 一郎, 堀江 卓, 川村 明夫,
本望 聡, 安部 美寛, 江川 宏寿,
池田 篤, 飯田 潤一, 久木田和丘,
玉置 透, 目黒 順一, 米川 元樹

ポリスルフォン膜透析器 FPX の性能評価について

札幌北榆病院 臨床工学技士科

札幌北榆病院 外科

住田 知規, 土濃塚広樹

久木田和丘, 米川 元樹, 川村 明夫

・第 68 回日本消化器内視鏡学会総会(平成 16 年 10 月 21 ~ 24 日 = 福岡)

造血幹細胞移植後に発症した GAVE (胃前庭部毛細血管拡張症) の 1 例

札幌北榆病院 消化器科

札幌北榆病院 内科

大泉 弘子, 古川 滋, 露口 雅子,

川村 直之, 斎藤 雅雄

今井 陽俊, 小林 直樹, 笠井 正晴

経過観察中に消退傾向を認めた多発性大腸リンパ管腫の一例

札幌北榆病院 消化器科

川村 直之, 古川 滋, 露口 雅子,

大泉 弘子, 斎藤 雅雄

・第 42 回日本癌治療学会総会(平成 16 年 10 月 27 ~ 29 日 = 京都)

BCR-ABL 遺伝子の定量化によるグリベックの効果判定の重要性

札幌北榆病院 内科

木山 善雄, 杉田 純一, 小林孝一郎,

賀川久美子, 米積 昌克, 豊島 経康,

今井 陽俊, 小林 直樹, 小笠原正浩,

笠井 正晴

当院における Aggressive NHL に対する up front setting での自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法 (HDC/ASCT) 施行例の検討

札幌北榆病院 内科

賀川久美子, 小林孝一郎, 杉田 純一,

米積 昌克, 豊島 経康, 今井 陽俊,

小林 直樹, 小笠原正浩, 木山 善雄,
笠井 正晴

・第 59 回日本大腸肛門病学会総会(平成 16 年 11 月 5, 6 日 = 久留米)

(シンポジウム) 潰瘍性大腸炎(UC)に対する infliximab の使用経験

札幌北榆病院 消化器科

古川 滋, 斎藤雅雄

・第 17 回日本透析医会シンポジウム(平成 16 年 11 月 14 日 = 東京)

(シンポジウム) 透析患者の下肢閉塞性動脈硬化症に対する幹細胞治療

札幌北榆病院 外科

堀江 卓, 川村 明夫, 津田 一郎,
本望 聡, 安部 美寛, 江川 宏寿,
池田 篤, 飯田 潤一, 坂田 博美,
小野寺一彦, 玉置 透, 久木田和丘,
目黒 順一, 米川 元樹

・第 31 回日本低温医学会総会(平成 16 年 11 月 18, 20 日 = 東京)

(ワークショップ) Characterization of G-CSF mobilized peripheral blood stem cell

札幌北榆病院 内科

小笠原正浩, 笠井正晴

(シンポジウム) Prevention of hepatic ischemia and reperfusion injury by donor preconditioning

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所

池田 篤, 玉置 透, 川村 明夫

(ワークショップ) Preconditioning with tin-protoporphyrin IX attenuates renal ischemia and reperfusion injury

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所

池田 篤, 海津 貴史, 玉置 透,
川村 明夫

・第 24 回日本アフェレシス学会学術大会(平成 16 年 11 月 19, 20 日 = 千葉)

(ワークショップ) 血管再生治療と保険適応

札幌北榆病院 外科

堀江 卓, 本望 聡, 安部 美寛,
江川 宏寿, 池田 篤, 津田 一郎,
飯田 潤一, 坂田 博美, 小野寺一彦,
玉置 透, 久木田和丘, 目黒 順一,
米川 元樹, 川村 明夫

(ワークショップ) 末梢血幹細胞による血管再生治療

札幌北榆病院 外科

堀江 卓, 本望 聡, 安部 美寛,
江川 宏寿, 池田 篤, 津田 一郎,
飯田 潤一, 坂田 博美, 小野寺一彦,
玉置 透, 久木田和丘, 目黒 順一,
米川 元樹, 川村 明夫

末梢血幹細胞採取(PBSCC)時におけるCa製剤投与量減量の工夫

札幌北榆病院 臨床工学技士科

土濃塚広樹

札幌北榆病院 内科

笠井 正晴

札幌北榆病院 外科

米川 元樹, 川村 明夫

第27回日本造血細胞移植学会総会(平成16年12月16,17日=岡山)

50才以上の白血病症例に対するRISTの移植成績

札幌北榆病院 内科

小林 直樹, 小林孝一郎, 杉田 純一,
賀川久美子, 米積 昌克, 豊島 経康,
今井 陽俊, 小笠原正浩, 木山 善雄,
笠井 正晴

ケモカインによる成熟樹状細胞の抗原提示能の増強を利用した造血細胞移植患者からの抗Survivin CTLの誘導

札幌北榆病院 内科

小笠原正浩, 小林孝一郎, 杉田 純一,
賀川久美子, 米積 昌克, 豊島 経康,
今井 陽俊, 小林 直樹, 木山 善雄,
笠井 正晴

非血縁者間同種骨髄移植後に食道狭窄を来した急性骨髄性白血病の一例

札幌北榆病院 内科

小林孝一郎, 杉田 純一, 賀川久美子,
米積 昌克, 豊島 経康, 今井 陽俊,
小笠原正浩, 小林 直樹, 木山 善雄,
笠井 正晴

個室化病棟における情報交換について-造血細胞移植患者間の交流会を通して-

札幌北榆病院 造血細胞移植センター

千葉百合子, 草島 千晶, 村重八千代,
安達 るり

札幌北榆病院 看護部

栗坪 睦子

再発を繰り返し2度目の造血細胞移植に臨んだ患者の看護-セルフケアと闘病意欲をサポートする看護師の役割-

札幌北榆病院 造血細胞移植センター

永井 裕子, 山田 千春, 草島 千晶,
村重八千代, 安達 るり

札幌北榆病院 看護部

栗坪 睦子

地方会

平成 16 年

- ・第 110 回九州透析懇話会(平成 16 年 1 月 15 日 = 北九州)
〔講演〕ブラッドアクセスのあれこれ
札幌北榆病院 人工臓器治療センター 久木田和丘

- ・厚生労働科学研究費研究成果等普及啓発フォーラム より良い白血病治療 in 札幌
(平成 16 年 1 月 24 日 = 札幌)
〔講演〕末梢血幹細胞移植
札幌北榆病院 笠井 正晴

- ・名古屋 BMT グループ特別講演会(平成 16 年 1 月 30 日 = 名古屋)
〔特別講演〕札幌北榆病院「0 からの出発」
札幌北榆病院 笠井 正晴

- ・第 80 回北海道外科学会(平成 16 年 2 月 8 日 = 札幌)
慢性腎不全の維持血液透析中に発症した男性乳癌の一例
札幌北榆病院 外科 坂田 博美, 今村 恵美, 江川 宏寿,
池田 篤, 津田 一郎, 飯田 潤一,
堀江 卓, 玉置 透, 久木田和丘,
目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

- ・第 230 回日本内科学会北海道地方会(平成 16 年 2 月 14 日 = 札幌)
蛋白漏出性胃腸症を合併した Sjögren 症候群の一例
札幌北榆病院 内科 加納 剛史, 笠井 正晴
札幌北榆病院 消化器科 桂田 武彦, 露口 雅子, 川村 直之,
大泉 弘子, 斎藤 雅雄

- ・第 29 回札幌市医師会医学会(平成 16 年 2 月 15 日 = 札幌)
造血幹細胞の遊走能と造血幹細胞移植後の血球回復の検討
札幌北榆病院 内科 今井 陽俊, 重松 明男, 米積 昌克,
小林 直樹, 小笠原正浩, 木山 善雄,
比嘉 敏夫, 笠井 正晴

- 肝虚血再灌流傷害に対するカルチニンの効果
人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 江川 宏寿, 玉置 透, 池田 篤,
飯田 潤一, 坂田 博美, 太田 美沙,
宮下麻美子, 川村 明夫

- ・第 24 回札幌市病院学会(平成 16 年 2 月 28 日 = 札幌)
 当院看護部における転倒・転落事故防止への取り組みについて～インシデントレポートより～
 札幌北榆病院 草島 千晶, 武田あゆみ, 鈴木 真澄,
 佐々木由紀子, 栗坪睦子
- 外来で化学療法を受ける患者の看護の見直し
 札幌北榆病院 外来 永尾 さち, 石塚 裕子, 米澤 花恵,
 菊地 優子, 佐藤 正子, 栗坪 睦子
- 全身麻酔下仰臥位手術患者における仙骨部の体圧調査
 札幌北榆病院 中央材料手術室 治部麻奈美, 小柳 良子, 西川 裕子,
 岡 まりこ, 鈴木 裕子, 塚田由布子,
 金住絵理子, 渡辺 美香, 萬 博美,
 栗坪 睦子
- TRALI と確定された輸血副作用症例について
 札幌北榆病院 千野 瞳, 南坂 雅美, 禿 蘭子,
 小矢奈々美, 佐藤 壮, 三浦 玲子,
 重松 明男, 木山 善雄, 笠井 正晴
- 高リン血症治療剤(塩酸セベラマー錠)の使用成績について
 札幌北榆病院 薬剤部 松岡 範有, 五十君篤哉, 尾下 公人
- ・虎の門病院学術講演会(平成 16 年 3 月 8 日 = 東京)
 (特別講演)細胞治療による四肢の再生
 札幌北榆病院 外科 川村 明夫
- ・多摩造血幹細胞治療検討会(平成 16 年 3 月 12 日 = 立川)
 (特別講演)造血細胞移植は病院にとって黒字となりえるか
 札幌北榆病院 内科 笠井 正晴
- ・旭川血液カンファレンス(平成 16 年 4 月 16 日 = 旭川)
 (特別講演)当院における CML の治療成績
 札幌北榆病院 内科 木山 善雄
- ・第 39 回日本血液学会北海道地方会(平成 16 年 4 月 17 日 = 旭川)
 血管内大細胞型 B 細胞リンパ腫(IVL)の 1 例
 札幌北榆病院 血液内科 杉田 純一, 賀川久美子, 豊島 経康,
 米積 昌克, 今井 陽俊, 小林 直樹,
 小笠原正浩, 木山 善雄, 比嘉 敏夫,
 笠井 正晴

・第 20 回北海道腎移植談話会(平成 16 年 6 月 5 日 = 札幌)

前感作抗体を有するループス腎炎症例への生体腎移植

札幌北榆病院 外科

本望 聡, 玉置 透, 安部 美寛,
江川 宏寿, 池田 篤, 津田 一郎,
飯田 潤一, 坂田 博美, 堀江 卓,
久木田和丘, 目黒 順一, 米川 元樹,
川村 明夫

当院での腎移植におけるアフターケア治療の実例

札幌北榆病院 外科

池田 篤, 玉置 透, 本望 聡,
安部 美寛, 江川 宏寿, 津田 一郎,
飯田 潤一, 坂田 博美, 堀江 卓,
久木田和丘, 目黒 順一, 米川 元樹,
川村 明夫

・第 231 回日本内科学会北海道地方会(平成 16 年 6 月 5 日 = 札幌)

自家末梢血幹細胞移植前に HBV の reverse seroconversion と考えられる急性 B 型肝炎を発症した非ホジキンリンパ腫の一例

札幌北榆病院 血液内科

小林孝一郎, 杉田 純一, 賀川久美子,
米積 昌克, 豊島 経康, 今井 陽俊,
小林 直樹, 小笠原正浩, 木山 善雄,
笠井 正晴

・第 5 回北海道急性血液浄化研究会(平成 16 年 6 月 12 日 = 札幌)

(シンポジウム)急性血液浄化におけるリスクマネジメント

札幌北榆病院 外科

堀江 卓

・札幌市白石老人福祉センター健康講話(平成 16 年 7 月 27 日 = 札幌)

(講話)腹痛と外科手術

札幌北榆病院 外科

江川 宏寿

・徳之島徳洲会病院血液講演会(平成 16 年 8 月 27 日 = 徳之島)

(講演)臨床医に必要な血液疾患の見方

札幌北榆病院 内科

笠井 正晴

・北海道がんセンター医療連携室一周年記念講演会(平成 16 年 8 月 27 日 = 札幌)

(講演)医療連携における留意点

札幌北榆病院 外科

米川 元樹

- ・第 81 回北海道外科学会(平成 16 年 9 月 4 日 = 札幌)
 肝腫瘍に凍結手術を併用した 2 症例の検討
 札幌北榆病院 外科
 本望 聡, 目黒 順一, 川村 明夫

- ・第 38 回四国透析療法研究会(平成 16 年 9 月 5 日 = 高松)
 (ランチョンセミナー) G-CSF を用いた末梢血幹細胞移植による糖尿病性虚血肢の治療
 札幌北榆病院 外科
 川村 明夫

- ・第 13 回北海道透析骨関節障害談話会(平成 16 年 9 月 11 日 = 札幌)
 上皮小体機能と腹部大動脈石灰化
 札幌北榆病院 外科
 津田 一郎, 久木田和丘, 本望 聡,
 安部 美寛, 江川 宏寿, 池田 篤,
 飯田 潤一, 堀江 卓, 坂田 博美,
 小野寺一彦, 玉置 透, 目黒 順一,
 米川 元樹, 川村 明夫

- 高度に進行した移植線による再発性副甲状腺機能亢進症の一例
 開成病院
 札幌北榆病院
 古井 秀典, 高田 尚幸, 大野 正博
 久木田和丘, 米川 元樹, 川村 明夫

- ・第 95 回日本消化器病学会北海道支部例会(平成 16 年 9 月 11 日 = 札幌)
 ラパコレ後 2 ヶ月で発症した MRSA 腸炎の 1 例
 札幌北榆病院 外科
 安部 美寛, 目黒 順一, 本望 聡,
 江川 宏寿, 池田 篤, 津田 一郎,
 飯田 潤一, 坂田 博美, 堀江 卓,
 玉置 透, 久木田和丘, 米川 元樹,
 川村 明夫

- 大腸 SMT として発見された粘液貯留性虫垂腺腫の一例
 札幌北榆病院 消化器科
 野口 晋佐, 古川 滋, 露口 雅子,
 川村 直之, 大泉 弘子, 斎藤 雅雄

- ・第 89 回日本消化器内視鏡学会北海道支部例会(平成 16 年 9 月 12 日 = 札幌)
 同種骨髄移植後に食道狭窄を来たし内視鏡的拡張術を要した一例
 札幌北榆病院 消化器科
 古川 滋, 野口 晋佐, 露口 雅子,
 川村 直之, 大泉 弘子, 斎藤 雅雄
 札幌北榆病院 内科
 今井 陽俊, 笠井 正晴
 北海道大学病院光学医療診療部
 清水 勇一

- ・平成 16 年度日本アフェレシス学会北海道地方会技術講習会(平成 16 年 9 月 12 日 = 札幌)
 (講演) 移植医療におけるアフェレシス治療
 札幌北榆病院 外科
 池田 篤

・IBDフォーラム(平成 16 年 9 月 18 日 = 札幌)

Collagenous colitis の検討

札幌北榆病院 消化器科

北大 第三内科

古川 滋, 露口 雅子, 川村 直之,
大泉 弘子, 斎藤 雅雄
加藤 寛士, 宮下 憲暢, 大川原辰也,
武田 宏司, 浅香 雅博

・第 52 回北海道麻酔科学会(平成 16 年 9 月 18 日 = 札幌)

胸水貯留による著明な低酸素血症を呈した悪性リンパ腫の麻酔症例

札幌北榆病院 麻酔科

沼澤 理絵, 中尾 康夫

・第 46 回日本臨床血液学会北海道地方会(平成 16 年 10 月 2 日 = 札幌)

imatinib mesylate併用療法により寛解導入し得た高齢者Ph⁺ ALLの一例

札幌北榆病院 血液内科

賀川久美子, 小林孝一郎, 杉田 純一,
米積 昌克, 豊島 経康, 今井 陽俊,
小林 直樹, 小笠原正浩, 木山 善雄,
笠井 正晴

深部静脈血栓症を合併した Myeloid / NK cell precursor acute leukemia に対して allo-PBSCT を施行した 1 例

札幌北榆病院 血液内科

小林孝一郎, 杉田 純一, 賀川久美子,
米積 昌克, 豊島 経康, 今井 陽俊,
小林 直樹, 小笠原正浩, 木山 善雄,
笠井 正晴

連日リンパ球採取を行ったドナーの末梢血及び採取リンパ球分画の検討

札幌北榆病院 臨床検査科

札幌北榆病院 血液内科

佐藤 壮, 山本 紗代, 南坂 雅美,
千野 瞳, 禿 蘭子, 三浦 玲子
小林孝一郎, 杉田 純一, 賀川久美子,
豊島 経康, 米積 昌克, 今井 陽俊,
小林 直樹, 小笠原正浩, 木山 善雄,
笠井 正晴

・第 80 回北海道医学検査学会(平成 16 年 10 月 2, 3 日 = 室蘭)

輸血後に発症した呼吸困難症例について

札幌北榆病院 検査科

千野 瞳, 山本 紗代, 南坂 雅美,
禿 蘭子, 佐藤 壮, 三浦 玲子

・第 24 回日本アフェレシス学会北海道地方会(平成 16 年 10 月 9 日 = 札幌)

末梢血幹細胞(CD34 陽性細胞)を用いた血管再生治療

札幌北榆病院 外科

堀江 卓, 本望 聡, 安部 美寛,
江川 宏寿, 池田 篤, 津田 一郎,
飯田 潤一, 坂田 博美, 玉置 透,
久木田和丘, 目黒 順一, 米川 元樹,
川村 明夫

健康人ドナーアフェレシスの安全性に関する検討

札幌北榆病院 血液内科

豊島 経康, 小林孝一郎, 杉田 純一,
賀川久美子, 米積 昌克, 今井 陽俊,
小林 直樹, 小笠原正浩, 木山 善雄,
笠井 正晴

4日間連続ドナーリンパ球採取の経験

札幌北榆病院 臨床検査科

札幌北榆病院 人工臓器治療センター

札幌北榆病院 血液内科

札幌北榆病院 外科

佐藤 壮
土濃塚広樹, 阿部 博
今井 陽俊, 木山 善雄, 笠井 正晴
久木田和丘, 米川 元樹, 川村 明夫

・第 66 回北海道透析療法学会(平成 16 年 10 月 24 日 = 札幌)

(ランチョンセミナー)ブラッドアクセスの諸問題

札幌北榆病院 人工臓器治療センター

久木田和丘

(シンポジウム)腎性上皮小体機能亢進症の手術

札幌北榆病院 外科

久木田和丘, 堀江 卓, 米川 元樹,
川村 明夫

病棟透析における問題点の検討

札幌北榆病院 臨床工学技士

札幌北榆病院 看護部

札幌北榆病院 外科

開成病院 外科

小塚 麻紀, 土濃塚広樹
栗坪 睦子
久木田和丘, 米川 元樹, 川村 明夫
古井秀典

プレフィルドシリンジ型ヘパリン製剤(血液凝固阻止剤)の非臨床における使用経験

開成病院

札幌北榆病院

木村 剛, 大西 史浩, 古井 秀典
阿部 博, 栗坪 睦子, 久木田和丘,
米川 元樹, 川村 明夫

当院における病棟透析について

札幌北榆病院 臨床工学技士

札幌北榆病院 外科

河西外科病院

清信 一貴, 土濃塚広樹
久木田和丘, 米川 元樹, 川村 明夫
上井 直樹, 河西 紀夫

- ・第 48 回日本輸血学会北海道支部例会(平成 16 年 10 月 30 日 = 札幌)
 再移植における非血縁者間臍帯血移植の有用性
 札幌北榆病院 内科
 丹羽 佑輔, 小林孝一郎, 杉田 純一,
 賀川久美子, 米積 昌克, 豊島 経康,
 今井 陽俊, 小林 直樹, 小笠原正浩,
 木山 善雄, 笠井 正晴

- 輸血製剤廃棄理由の検討
 札幌北榆病院 臨床検査科・輸血部
 三浦 玲子, 山本 紗代, 南坂 雅美,
 千野 瞳, 禿 蘭子, 佐藤 壮
 札幌北榆病院 麻酔科
 中尾 康夫
 札幌北榆病院 血液内科
 今井 陽俊, 木山 善雄, 笠井 正晴

- ・北海道臨床衛生検査技師会 第 10 回札幌セミナー(平成 16 年 10 月 30 日 = 札幌)
 (講演)急性白血病の診断・FAB 分類と新 WHO 分類・
 札幌北榆病院 内科
 今井 陽俊

- ・函館泌尿器科会学術講演会(平成 16 年 11 月 4 日 = 函館)
 (特別講演)腎性上皮小体機能亢進症の臨床と治療
 札幌北榆病院 人工臓器治療センター
 久木田和丘

- ・第 233 回日本内科学会北海道地方会(平成 16 年 11 月 6 日 = 札幌)
 Rituximab 併用化学療法が有効であった原発性マクログロブリン血症の一例
 札幌北榆病院 血液内科
 小林孝一郎, 杉田 純一, 賀川久美子,
 米積 昌克, 豊島 経康, 今井 陽俊,
 小林 直樹, 小笠原正浩, 木山 善雄,
 笠井 正晴

- ・北海道糖尿病性血管障害セミナー(平成 16 年 11 月 6 日 = 札幌)
 (特別講演)細胞移植による血管再生が糖尿病性微小血管症を改善するメカニズム
 札幌北榆病院 外科
 川村 明夫
 (特別講演)血管再生による虚血四肢の治療
 札幌北榆病院 外科
 堀江 卓

- ・釧路骨髓バンク推進協会(平成 16 年 11 月 13 日 = 釧路)
 (講演)ミニ移植について
 札幌北榆病院 内科
 小林 直樹

- ・第 6 回宮崎造血幹細胞移植看護セミナー(平成 16 年 11 月 13 日 = 宮崎)
 (特別講演)造血細胞移植の問題点
 札幌北榆病院 内科 笠井 正晴

(特別講演)当院における造血幹細胞移植看護の実際とレポート
 札幌北榆病院 造血幹細胞センター看護科 安達 るり
- ・第 83 回北海道癌談話会秋季シンポジウム(平成 16 年 11 月 13 日 = 札幌)
 (シンポジウム)CML に対するグリベックの使用経験
 札幌北榆病院 内科 木山 善雄
- ・第 18 回釧根透析研究会(平成 16 年 11 月 20 日 = 釧路)
 (特別講演)長期透析患者の合併症 - 日常の観察の重要性 -
 札幌北榆病院 人工臓器治療センター 久木田和丘
- ・札幌市内科医会学術講演会(平成 16 年 11 月 25 日 = 札幌)
 (講演)最近の大腸疾患について
 札幌北榆病院 消化器科 斎藤 雅雄
- ・第 10 回北海道レジデントカンファレンス(平成 16 年 11 月 27 日 = 札幌)
 Ph 陽性急性リンパ性白血病に対する Imatinib Mesylate 併用化学療法の検討
 札幌北榆病院 内科 杉田 純一, 小林孝一郎, 賀川久美子,
 米積 昌克, 豊島 経康, 今井 陽俊,
 小林 直樹, 小笠原正浩, 木山 善雄,
 笠井 正晴
- ・第 68 回腸疾患研究会(平成 16 年 11 月 27 日 = 札幌)
 Infliximab が著効したクローン病の 1 例
 札幌北榆病院 消化器科 中垣 彩, 古川 滋, 露口 雅子,
 川村 直之, 大泉 弘子, 斎藤 雅雄
- ・日本小児科学会北海道地方会第 261 回例会(平成 16 年 11 月 28 日 = 札幌)
 インフルエンザ B 感染に伴うと考えられる多形浸出性紅斑の一例
 札幌北榆病院 小児科 安田 一恵, 小林 邦彦, 越後谷雅代
- ・第 22 回日本アフェレシス学会関西地方会・技術講習会(平成 16 年 12 月 11 日 = 広島)
 (講演)アフェレシスにおけるブラッドアクセスの選択
 札幌北榆病院 外科 米川 元樹

講演会・研究会報告

・第 14 回北榆セミナー(平成 16 年 1 月 13 日)

特別講演「ヒト癌ペプタイド抗原ペプタイドワクチンによる癌治療」

札幌医科大学病理学第一講座

佐藤 昇志

・第 15 回北榆セミナー(平成 16 年 3 月 19 日)

特別講演「膵腎移植の実際とわが国の現況」

九州大学大学院臨床腫瘍外科講座

杉谷 篤

・第 16 回北榆セミナー(平成 16 年 6 月 3 日)

特別講演「透析の基礎と発展」

特定医療法人慈泉会 相澤病院 透析・腎不全センター

神應 裕

・第 17 回北榆セミナー(平成 16 年 10 月 15 日)

特別講演「透析療法の相互補完」

医療法人あかね会 土谷総合病院

川西 秀樹

・札幌北榆病院臨床病理検討会(平成 16 年 10 月 28 日)

演題 1「総胆管術後胃膵吻合部再発にて出血コントロールが不可能であった 1 例」

北海道大学分子細胞病理

進藤 正信

演題 2「膵炎のコントロールが困難にて死の転帰をとったリウマチによる維持透析

患者の 1 例」

北海道大学分子細胞病理

近井 佳奈子

各部門報告

外科

平成 16 年度の外科の業務や業績について報告します。

毎日の外来、回診、手術は変わらず多忙ですが、昨年度から新しい研修医制度が走り出し、フレッシュな若いドクターが加わって一層活気が出た年でした。手術件数も伸びて 1,156 件になりました。合併症を起こすとますます多忙になるので、より気を使った一年でもありました。学会発表は、国際学会 3 題、全国学会 32 題、地方会 23 題でした。提出論文は、英文はありませんでしたが、邦文が 22 編でした。英文抄読会、透析勉強会も引き続き行われています。来年度は、内視鏡外科の対象分野を、現在の胆嚢、肺疾患、移植ドナー腎から少し広げて、消化管(胃、大腸)にも拡大していく準備をしたいと考えています。合併症を起こしては何もありませんので、慎重に検討したいと思います。歓迎会などの宴会や、毎年恒例の屋上バーベキュー大会、餅つきなどもストレス発散のために続けていきたいと思っています。

患者さんを御紹介いただいている諸先生には、今後ともよろしく願いいたします。

(副院長 外科 目黒順一)

内科

日本内科学会の教育関連病院になっています。平成 15 年度から管理型卒後臨床研修病院として研修医の研修施設となっており優秀な研修医の研鑽の場ともなっています。実力のある内科専門医や内科研修指導医も多く充実した診療内容を提供しています。また北海道大学病院の協力研修病院にもなっています。一般内科では健康相談やプライマリケアを行いどここの専門科にかかってよいのかわからない時など幅広い疾患に対応します。病気としては高血圧などの循環器疾患、糖尿病、また甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、橋本病などの甲状腺疾患、リウマチや全身性エリテマトーデスなどの自己免疫病や腎不全などの広範囲にわたる病気を中心に診察します。流行期には呼吸器科と一緒に風邪やインフルエンザなどの治療もします。各専門科と緊密な連携をとって診断、治療にあたり、血液内科や消化器科とも連携して血液腫瘍や固形癌の治療にもあたります。入院設備は全科が個室医療であり安心して他に気兼ねすることなく治療をうけられます。

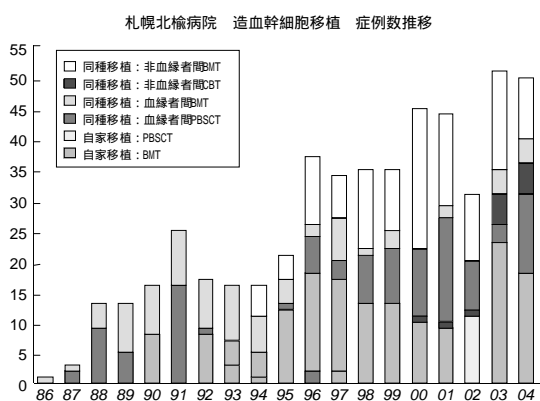
(内科部長 木山善雄)

血液内科

血液内科は診療スタッフも経験豊かな医師が多く日本でも有数の血液治療の施設となっています。急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病、慢性白血病、骨髄異形成症候群、リンパ腫、骨髄腫などの血液悪性疾患や、再生不良性貧血、鉄欠乏性貧血などの貧血、赤血球増多症、血小板増加症、血小板減少症などの血液疾患全般の診断、治療を行っています。抗がん剤治療や造血細胞移植(骨髄移植)を積極的に行い北海道内各地より多くの患者さんが紹介されてみえられています。完全個室医療で個室料は無料であり病床数も血液内科は 100 床以上あります。全国の臨床研究の共同施設となっており

日本成人白血病研究グループや日本臨床腫瘍グループに属し最新の先進医療を患者さんに提供しています。無菌室も 25 床あり感染対策も他病院に比較して数段優れています。白血病やリンパ腫などに対する抗がん剤治療を適切に行っています。造血細胞移植療法も年間約 40～50 例ほど行い現在まで約 450 例以上の移植を行いよい成績を治めています。また日本血液学会の認定病院で血液専門医のための後期血液研修制度があります。また日本癌治療学会、日本輸血学会の認定施設であり、骨髄バンクや臍帯血移植の認定施設にもなっています。ベテラン、中堅の経験豊富なドクターが多く、診療を担当し治療内容の充実および環境とアメニティの向上が図られています。

(副院長 血液内科 笠井正晴)



消化器科

当科は現在常勤医 6 名、研修医 2～3 名であり、また内視鏡室のスタッフとして看護師 5 名、内視鏡学会認定技師 3 名が従事しており、日常の内視鏡検査は勿論のこと、吐・下血等の緊急時にも速やかに対処可能な体制をとっている。平成 16 年度の検査実績として、胃内視鏡検査 2,800 例、大腸内視鏡検査 2,100 例、超音波検査 2,000 例を施行している。その他、胃・大腸ポリペクトミー、EMR 350 例、ERCP 150 例、食道静脈瘤治療 35 例、内視鏡的胆道系治療 40 例程行っている。また最近は、バルーン付小腸内視鏡検査も行っているところである。学会活動は、日本内科学会地方会、日本消化器病学会総会、地方会、日本消化器内視鏡学会総会、地方会、日本大腸肛門病学会総会等に積極的に発表しており、また外国での発表も行っている。研修医に対しては、一般臨床医養成のための教育と、消化器系専門を目指す者には更に内視鏡の指導、消化器学の全般的な教育をできるように体制を整えている。当科では、以前より Helicobacter pylori 除菌療法による消化性潰瘍の再発の抑止や、炎症性腸疾患の治療に力を入れており、全道から紹介された患者さんに対し、積極的な治療を行い、その成果をあげている。

(消化器科部長 斎藤雅雄)

呼吸器科

平成 11 年に開設された呼吸器科は医師 1 名で午前の外来診療を主としております。

呼吸器科の検査としては一般的なレントゲン検査の他に、肺 CT 検査は他院で類を見ない三次元画

像診断ができます。放射性同位元素を用いた肺血流シンチグラムのみならず血管造影も可能になりました。呼吸機能検査はもとより、24 時間経皮酸素分圧測定も可能となりました。気管支内視鏡による早期癌の治療も始めました。胸腔鏡は胸水疾患の診断ばかりではなく、早期の治療にも用いられ、自然気胸の内視鏡治療では北海道のセンターとして認められています。

気管支喘息の治療にはピークフローメーターを用いたステロイドの吸入療法を取り入れています。また肺結核の後遺症や慢性肺気腫その他の慢性呼吸不全の患者さんに対してのみならず透析患者さんにも在宅酸素療法も始め、在宅医療を充実しました。死亡率1位の肺癌に対しては胸腔鏡手術から開胸手術、化学療法や癌性胸膜炎に対する温熱療法、放射線療法など集学的治療が可能です。

学会活動としては日本気胸・嚢胞性肺疾患学会理事、日本内視鏡外科学会評議員、日本内科学会認定医、日本呼吸器学会指導医・専門医、日本気管支学会・気管支鏡指導医、北海道内視鏡外科研究会世話人をしております。「自然気胸治療ガイドライン」編集委員会の委員長として日本気胸・嚢胞性肺疾患学会のホームページに「自然気胸治療ガイドライン」を掲載しました。

札幌東呼吸器談話会には毎月参加しており、病・医院間の連携も良くなってきました。

外来診療では職業病であるじん肺に力を注いできた甲斐があり「じん肺患者交友会」が組織され当院で患者・家族の交流会が開催され、道内各地に通院している患者さん達も多数参加されました。

入院診療においては血液内科・消化器科の先生のみならず、手術時には外科・麻酔科の先生方のご支援いただきこの紙面を借りてお礼申し上げます。

(呼吸器科部長 本田哲史)

整形外科

長期透析患者の増加に伴い、整形外科で治療する機会が多くなっています。代表的なものは、アミロイド骨嚢胞が原因の関節症、骨折の発生、ASO、DM 合併症例に多い足部の壊死の発生、維持透析 10 年以上の患者の過半数に発症する手根管症候群、があります。

それぞれへの最近の対応として、人工関節を用いる場合は出来るだけ骨セメントを使用しない機種を考慮、複数回の切断術を避けるために至適切断高位の決定に客観性を持たせる事、再発例では数本の浅指屈筋群を切除する、等々を行っています。

(整形外科部長 高橋修司)

麻酔科

平成 16 年の手術件数は 1369 件と前年と同数であった。しかしながら、麻酔科管理手術件数は 808 件から 845 件と 5%の増加が認められた。透析患者の麻酔科管理手術件数は、248 件あり、手術件数増加の一要因であった。

麻酔科人員は前年と同様固定医 2 名であったが、1 年目の研修医が 3 ヶ月交代で 3 名、合計 9 ヶ月間、実際には大学との関係で一名が 2 ヶ月となったため 8 ヶ月間麻酔科に所属した。研修医といえども一名の増員は大きく、手術数増加に対応するのに大きな力となった。研修医の先生方には、麻酔科研修を今後の臨床の場で生かして活躍していただきたい。

学会活動では維持透析患者の麻酔関連の演題で、国際学会 1 回、全国学会 3 回、地方会 1 回の計 5 演題を発表し、論文も 2 編発表した。ここ数年に比べ、論文が少しずつ増加してきている。今後、論文発表を増加させるよう鋭意努力する必要があると考えられた。

(麻酔科部長 中尾康夫)

人工臓器治療センター (AOC)

2004 年は北楡会として開成病院でも透析室が新設された。また病室にいたままで血液透析が可能なユニークなシステムを取り入れた。この件は学会でも報告され、入院透析の参考にするため施設の見学を訪れた事もあった。このため医師を含めた病院スタッフが、多く開成と当院を往復することとなり開成病院でも現在約 70 人の透析症例の治療を行っている。当院では臨床工学士科が独立し、チーフの土濃塚氏を副技師長として新たな第一歩を踏み出した。今後、日常臨床に加え、学会活動等を通して社会的にも一層認知されるよう期待したい。現在当院の透析症例は約 300 人であり、日曜日と正月以外は毎日治療が行われているが、それに加え臨時的血液浄化が必要な場合は当番制で治療が行われている。2004 年の総血液透析回数は約 46800 件に上った。現在、AOC で管理する多人数用患者監視装置は 51 台、個人用患者監視装置は 38 台である。その他、持続的血液濾過用機器が 1 台、冷却濾過専用機器 1 台がある。今後、新年早々にも 5 台の患者監視装置を導入する予定である。アフレスス治療としては、冷却濾過を 67 回、血漿交換を 24 回、二重濾過膜血漿交換を 1 回、ビリルビン吸着を 11 回、薬物吸着を 1 回、エンドトキシン吸着を 3 回、LDL 吸着を 21 回行っている。また閉塞性動脈硬化症に対する血管再生治療症例も飛躍的に増加し、末梢血幹細胞採取は 1 回に及んだ。

学会活動でも例年通り日本人工臓器学会、日本アフレスス学会、日本透析医学会、日本医工学治療学会、急性血液浄化学会ほか全国学会および多数の地方会に積極的に参加した。全国学会参加は医師のみではなく、臨床工学技士、看護師も現場のあるいは実験での成果を多数報告した。

当院も開設以来 20 年を迎えたが、巷で騒がれている成人式の幼稚さを排し、今後とも病院、研究所全体として新しい技術の導入、確保、開発に努め、たえまない努力を惜しまないようにしたい。

(人工臓器治療センター長 久木田和丘)

小児科

常勤一名、非常勤一名の診療体制です。急性疾患の診断治療、予防接種・乳児健診などの健康管

理、喘息・アレルギー関連疾患など長期管理を要する患者さんを外来中心に診ています。平成 16 年 7 月から北大小児科前教授の外来診療が週 3 回加わりました。入院は急性疾患が主ですが、全室個室なので隔離を要する患者さんにも迅速に対応しています。専門分野の疾患については、北大小児科の各診療班、他科も含めて関連病院の先生に大変お世話になっております。

日常の診療のなかから興味ある症例が散見されるようになり、今年度は地方会で症例報告を行いました。現在は特に専門外来などはもうけていませんが、小児科一般としてよく遭遇する疾患のなかから症例・臨床研究につなげていければと考えています。

(小児科医長 安田一恵)

歯科

歯科は、歯科医師 1 名、歯科衛生士 2 名、受付 1 名の体制で入院患者、人工透析患者、他科受診の外来患者さんに加え歯科のみの方も診療を行っております。昨年度は人工透析、骨髄移植患者さんの来患者数が増え多くの方が歯科で治療されています。人工透析患者さんは特に歯周病が増悪しやすい環境にあるため、日々患者さん達の口腔衛生管理や歯周病治療を全力で行っています。また、骨髄移植の患者さんでも他院などから転院されてくる場合、歯科に来る時期が移植日間近の方もいらっしゃいますが、そんな患者さんでも保存治療の対応ができるように、根管治療の迅速化を図るため、歯科用レーザーやクラウン法応用の根管治療用エンジンリーマーを導入し、術後の QOL 向上にむけて極力抜歯しない努力をしております。一方、出血傾向の増進や血小板の減少した患者さんも安心して歯科治療が受けられるように、外科および内科の先生達と緊密に連携をとりながら診療を行っております。

(歯科 佐伯典彦)

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所

本年度の当研究所の活動状況について報告します。

主に外科系の研究課題が行われている動物実験室では、前年度に引き続いてビーグル犬を用いた「血液透析用穿刺型ブラッドアクセスの開発」や「末梢血幹細胞を用いた虚血肢治療の基礎研究」などの前臨床段階の研究から、すでに臨床で実践されている虚血肢治療のメカニズムを解明する基礎研究が精力的に行われています。これまでの血管内皮細胞の再生に有用と考えられてきた CD34+細胞以外の細胞も血管内皮細胞の分化誘導に関与することが示唆されています。

今後は多様に分化する可能性が高い末梢血幹細胞を用いて、保存期慢性腎不全の悪化を防止する基礎研究のための動物疾患モデルの確立および移植実験が必要です。今年度は、ラットの腎尿細管傷害モデルや自然発症糖尿病モデルを用いて、同系のラット末梢血幹細胞移植実験を行っています。

移植研究の面では、ラット臓器移植モデルを用いた「ストレス応答性細胞保護物質の誘導」やラット疾患モデルを用いたウイルスベクターを用いない「増殖因子関連遺伝子導入の基礎的研究」などが行われています。わが国では欧米に比較して脳死下臓器提供が極端に少なく、献腎移植もほとんどが心停止後提供された腎移植が圧倒的に多数を占めていますが、死戦期の腎細胞機能の低下を少しでも抑制するための新しい保存液の開発を含めた医療技術の確立が必要です。

一方、遺伝子研究室では主に内科系の研究課題が行われてきました。血液内科からは「樹状細胞を用いた造血器悪性腫瘍の免疫遺伝子学的研究」、「アンチセンス遺伝子を用いた白血病の治療」や「リンパ系腫瘍におけるマイクロサテライト不安定性の研究」などが前年度に引き続いて精力的に行われています。消化器内科からは「胃十二指腸疾患と Helicobacter Pylori 菌との関連性」や「炎症性腸疾患における白血球除去療法の検討」などの臨床研究も盛んに行われています。

平成 16 年度の研究所における業績として、国際学会 1 件、全国学会 4 件、地方会 1 件の学会発表があり、邦文誌 2 題の論文発表がありました。

これらの実験研究を日夜支えていただいております研究員および動物飼育員の皆さんに感謝致します。

(人工臓器・移植・遺伝子治療研究所所長 玉置 透)

開成病院

当院では 98 床のベッドを有し、5 名の常勤医と北大血液内科から交代で 2 名の出張医で診療にあたっている。この他に、札幌北楡病院から整形外科 Dr 及び内科 Dr のサポートをお願いしている。

内科では、血液疾患・消化器疾患を中心として、糖尿病・肺炎・高血圧症など内科全般を対象としている。近隣の内科医からの紹介も徐々に増加しつつあるが、急性期患者の割合が少ないため入院の長期化傾向があり、高齢化が目立つのが課題である。今後、消化器癌の診断や炎症性腸疾患を中心とする消化器疾患症例の増加が期待され、また検診に力点を置いていく方針で、よりアクティブな体制を目指している。

外科は透析を主として 38 床の入院透析患者用のベッドと一般外科患者用約 20 床を受け持ち、外来透析コンソール 15 台が稼働している。入院患者では再発乳癌の化学療法や終末期医療患者が多く、手術症例ではヘルニア・虫垂炎、シャント手術などの局所麻酔下の手術及び甲状腺・乳腺の体表臓器手術が主であり、件数が少ないのが残念である。ただ内科と共同で PEG 造設症例が少しずつ増えている。今後は外来透析患者症例を増やしていくのが課題であると考えている。

(開成病院 副院長 大野正博)

論文

邦文

平成 16 年

細胞治療による虚血四肢の再生 . 川村明夫 , 堀江 卓 , 津田一郎 , 久木田和丘 , 米川元樹 (札幌北榆病院・外科) . 北海道医学雑誌 79(1): 9-13, 2004 .

炎症性腸疾患患者の末梢血単核球における抑制性 NK レセプター発現細胞動態の検討 . 古川 滋 (北大・消化器内科) . 北海道医学雑誌 79(6): 765-773, 2004 .

肝不全よりの進展 . 米川元樹 , 目黒順一 , 川村明夫 (札幌北榆病院・外科) . 日本アフェレシス学会雑誌 23(1): 34-41, 2004 .

CAPD 症例における腹膜生検部位別病理組織変化の違い . 久木田和丘 , 比嘉敏夫 , 今村恵美 , 江川宏寿 , 池田 篤 , 津田一郎 , 飯田潤一 , 堀江 卓 , 坂田博美 , 玉置 透 , 目黒順一 , 米川元樹 , 川村明夫 (札幌北榆病院) , 平野 宏 (岩藤クリニック腎臓病医療センター) , 工藤靖夫 (南一条病院) . 日本透析医学会雑誌 37(6): 1411-1416, 2004 .

透析者の消化器癌の手術 . 久木田和丘 (札幌北榆病院・外科) , 金昌雄 (白鷺病院・外科) . 日本透析医学会雑誌 37(7): 1459, 2004 .

悪性腫瘍の疫学 . 海津嘉蔵 (産業医科大学病院・腎センター) , 室古典義 (千葉社会保険病院) , 木村英二 , 金昌雄 (白鷺病院・外科) , 増子佳弘 , 久木田和丘 (札幌北榆病院・外科) , 秋山和宏 (東葛クリニック病院・外科) , 唐仁原全 (東京女子医科大学腎臓病総合医療センター・外科) , 川西秀樹 (あかね会土谷総合病院) , 大平整爾 (札幌北クリニック) . 日本透析医学会雑誌 37(7): 1460-1461, 2004 .

胃癌 . 室古典義 (千葉社会保険病院) , 海津嘉蔵 (産業医科大学病院・腎センター) , 木村英二 , 金昌雄 (白鷺病院・外科) , 増子佳弘 , 久木田和丘 (札幌北榆病院・外科) , 秋山和宏 (東葛クリニック病院・外科) , 唐仁原全 (東京女子医科大学腎臓病総合医療センター・外科) , 川西秀樹 (あかね会土谷総合病院) , 大平整爾 (札幌北クリニック) . 日本透析医学会雑誌 37(7): 1462-1465, 2004 .

大腸癌 . 増子佳弘 , 久木田和丘 (札幌北榆病院・外科) , 海津嘉蔵 (産業医科大学病院・腎センター) , 木村英二 , 金昌雄 (白鷺病院・外科) , 室古典義 (千葉社会保険病院) , 秋山和宏 (東葛クリニック病院・外科) , 唐仁原全 (東京女子医科大学腎臓病総合医療センター・外科) , 川西秀樹 (あかね会土谷総合病院) , 大平整爾 (札幌北クリニック) . 日本透析医学会雑誌 37(7): 1466-1469, 2004 .

透析症例の全身麻酔下における下肢非観血的血圧測定値の信頼性に関する検討 . 沼澤理絵, 中尾康夫 (札幌北榆病院・麻酔科) . 日本臨床麻酔学会誌 24(10): 586-592, 2004 .

抗 HLA 抗体による輸血関連急性肺障害 (Transfusion-Related Acute Lung Injury, TRALI) を発症した胃癌合併骨髓異形成症候群 . 重松明男, 米積昌克, 今井陽俊, 小林直樹, 木山善雄, 小笠原正浩, 比嘉敏夫, 笠井正晴 (札幌北榆病院・内科), 千野 瞳, 三浦玲子 (札幌北榆病院・輸血部), 佐藤進一郎, 藤原満博, 関本達也, 宮崎 孔, 池田久實 (北海道赤十字血液センター) . 日本輸血学会雑誌 50(5): 720-725, 2004 .

統合医療への期待 . 川村明夫 (札幌北榆病院) . 統合医療 1(1): 11, 2004 .

CD34 陽性細胞移植による四肢血管の再生 . 川村明夫, 堀江 卓, 津田一郎, 久木田和丘, 本望 聡, 安部美寛, 江川宏寿, 池田 篤, 飯田潤一, 坂田博美, 小野寺一彦, 玉置 透, 目黒順一, 米川元樹 (札幌北榆病院・外科) . 循環器科 56(4): 361-367, 2004 .

肝がんの凍結治療 . 玉置 透, 池田 篤, 目黒順一, 米川元樹, 川村明夫 (札幌北榆病院・外科) . Clinical Engineering 15(8): 859-868, 2004 .

消化器手術における透析患者の周術期管理と血液浄化 . 久木田和丘, 堀江 卓, 米川元樹, 川村明夫 (札幌北榆病院・外科) . Clinical Engineering 15(10): 1009-1013, 2004 .

透析患者における末梢血幹細胞 (CD34 陽性細胞) を用いた血管再生医療 . 堀江 卓, 川村明夫, 久木田和丘 (札幌北榆病院・外科) . Medical Science Digest 30(1): 2-3, 2004 .

超音波, 電磁波などを含む物理的手法による治療 . 米川元樹 (札幌北榆病院) . Medical Science Digest 30(9): 361-363, 2004 .

急性血液浄化療法を担うチーム構築とリスクマネジメント . 久木田和丘, 坂田博美, 玉置 透, 目黒順一, 米川元樹, 川村明夫 (札幌北榆病院・外科) . 臨牀透析 20(4): 435-439, 2004 .

肺, 気管支, 胸腔領域 . 本田哲史 (札幌北榆病院・呼吸器科), 飯田潤一 (札幌北榆病院・外科), 中山大志 (札幌北榆病院・放射線科) . 日本臨床 62(4): 768-780, 2004 .

血液透析患者における HCV 感染 . 露口雅子, 斎藤雅雄 (札幌北榆病院・消化器科), 久木田和丘, 川村明夫 (札幌北榆病院・外科) . 日本臨床 62 巻 増刊号 7 ウイルス性肝炎 (上), p.319-322, 2004 .

局所麻酔下胸腔鏡 . 歴史と未来 . 本田哲史 (札幌北榆病院・呼吸器科) . 気管支学 26(4): 315-321, 2004 .

紛らわしい細胞への PCR 法による判断支援 . 三浦玲子 (札幌北榆病院・臨床検査科), 笠井正晴 (札幌北榆

病院・内科) . 日本検査血液学会雑誌 5(1): 70-76, 2004 .

パーキットリンパ腫 . 笠井正晴, 米積昌克 (札幌北榆病院・血液内科) . 最新医学 59(6): 1213-1220, 2004 .

ICUにおける血液浄化システムの構築と維持 . 川村明夫 (札幌北榆病院・外科) . ICUとCCU 28(別冊): S1-S4, 2004

腎移植 high risk 症例に対する周術期の血液浄化 . 米川元樹, 玉置 透, 池田 篤, 川村明夫 (札幌北榆病院・外科) . ICUとCCU 28(別冊): S99-S100, 2004 .

胸骨斜切開を併用した経皮的血管形成術 . 久木田和丘, 米川元樹, 今村恵美, 江川宏寿, 池田 篤, 津田一郎, 飯田潤一, 堀江 卓, 坂田博美, 玉置 透, 目黒順一, 川村明夫 (札幌北榆病院・人工臓器治療センター) . 腎と透析 55 巻別冊 アクセス 2004, p.159-161, 2004 .

内シャントトラブルに対する外科的治療法の検討 . 後藤順一, 久木田和丘, 米川元樹, 川村明夫 (札幌北榆病院・外科) . 腎と透析 57 巻別冊 腎不全外科 2004, p.26-28, 2004 .

播種性血管内凝固症を併発した維持透析患者の十二指腸腫瘍の1例 . 久木田和丘, 今村恵美, 江川宏寿, 池田 篤, 津田一郎, 飯田潤一, 堀江 卓, 坂田博美, 玉置 透, 目黒順一, 米川元樹, 川村明夫 (札幌北榆病院・外科) . 腎と透析 57 巻別冊 腎不全外科 2004, p.54-55, 2004 .

特殊な腎移植: ABO 不適合腎移植 抗体除去を考慮した術前・術中管理が重要 . 中尾康夫, 沼澤理絵 (札幌北榆病院・麻酔科) . LiSA 11(12): 1216-1218, 2004 .

肝虚血再灌流傷害に対するカルチニンの効果 . 江川宏寿, 玉置 透, 池田 篤, 飯田潤一, 坂田博美, 太田美沙, 宮下麻美子, 川村明夫 (人工臓器・移植・遺伝子治療研究所) . 札幌医通信増刊 No. 224, 第 29 回札幌市医師会医学会誌 p.81-82, 2004 .

造血幹細胞の遊走能と造血幹細胞移植後の血球回復の検討 . 今井陽俊, 重松明男, 米積昌克, 小林直樹, 小笠原正浩, 木山善雄, 比嘉敏夫, 笠井正晴 (札幌北榆病院・内科) . 札幌医通信増刊 No. 224, 第 29 回札幌市医師会医学会誌 p.241-242, 2004 .

当病院における転倒・転落防止への取り組みについて . 草島千晶, 武田あゆみ, 鈴木真澄, 佐々木由紀子, 栗坪睦子 (札幌北榆病院・看護部安全委員会) . 第 24 回札幌市病院学会講演集, p.30-32, 2004 .

外来で化学療法を受ける患者の看護の見直し . 永尾さち, 菊地優子, 米澤花恵, 佐藤正子, 石塚裕子, 栗坪睦子 (札幌北榆病院・外来) . 第 24 回札幌市病院学会講演集, p.32-34, 2004 .

全身麻酔下仰臥位手術患者における仙骨部体圧調査 . 治部麻奈美, 塚田由布子, 西川裕子, 金住絵理子, 鈴木裕子, 岡 まりこ, 小柳良子, 渡辺美香, 萬 博美, 栗坪睦子(札幌北榆病院・中央手術材料室) . 第 24 回札幌市病院学会講演集, p.56-58, 2004 .

TRALI と確定された輸血副作用症例について . 千野 瞳, 南坂雅美, 禿 蘭子, 小矢奈々美, 佐藤 壮, 三浦玲子, 重松明男, 木山善雄, 笠井正晴(札幌北榆病院) . 第 24 回札幌市病院学会講演集, p.144-145, 2004 .

高リン血症治療剤「塩酸セベラマー」の使用成績について . 松岡範有, 五十君篤哉, 尾下公人(札幌北榆病院・薬剤部) . 第 24 回札幌市病院学会講演集, p.162-163, 2004 .

気胸 . 本田哲史(札幌北榆病院・呼吸器科) . 今日の治療指針 2004 年版, 山口徹, 北原満夫 編, 医学書院, 東京, 2004 年, p.229-230 .

アフエリス療法 . 米川元樹(札幌北榆病院・外科) . 人工臓器 2004 第 20 回日本人工臓器教育セミナー, 富澤康子 編, 日本人工臓器学会, 2004 年, p.19-26 .

ASO とアフエリス . 堀江 卓, 今村恵美, 江川宏寿, 池田 篤, 津田一郎, 飯田潤一, 坂田博美, 玉置 透, 久木田和丘, 目黒順一, 米川元樹, 川村明夫(札幌北榆病院・外科) . 平成 15 年度北海道輸血療法検討会, 池田久實 編, 2004 年, p.112-119 .

3.白血病の治療方法 4) 移植療法 同種移植(原理, 適応, 成績) . 米積昌克, 笠井正晴(札幌北榆病院・内科) . みんなに役立つ白血病の基礎と臨床, 大野竜三, 宮脇修一 編, 医薬ジャーナル社, 東京, 2004 年, p.233-244 .

アフエリスに用いられるブラッドアクセス . 柴原伸久(大阪医大・泌尿器科), 久木田和丘(札幌北榆病院・人工臓器治療センター), 天野 泉(天理よろづ相談所病院・腎透析科) . 新版 アフエリスマニュアル - 難治疾患の治療革命 -, 日本アフエリス学会 編, 秀潤社, 東京, 2004 年, p.158-163 .

腎移植後慢性拒絶とアフエリス . 目黒順一(札幌北榆病院・外科) . 新版 アフエリスマニュアル - 難治疾患の治療革命 -, 日本アフエリス学会 編, 秀潤社, 東京, 2004 年, p.255-258 .

血液過粘稠度症候群 . 木山善雄(札幌北榆病院・内科) . 新版 アフエリスマニュアル - 難治疾患の治療革命 -, 日本アフエリス学会 編, 秀潤社, 東京, 2004 年, p.330-333 .

TTP . 小林直樹(札幌北榆病院・内科) . 新版 アフエリスマニュアル - 難治疾患の治療革命 -, 日本アフエリス学会 編, 秀潤社, 東京, 2004 年, p.334-336 .

造血幹細胞移植 . 笠井正晴(札幌北榆病院・内科) . 新版 アフエリスマニュアル - 難治疾患の治療革命 -,

日本アフェレシス学会 編, 秀潤社, 東京, 2004 年, p.386-393.

骨髄移植. 今井陽俊(札幌北榆病院・内科). 新版 アフェレシスマニュアル - 難治疾患の治療革命 -, 日本アフェレシス学会 編, 秀潤社, 東京, 2004 年, p.394-397.

腎移植. 米川元樹, 玉置 透, 川村明夫(札幌北榆病院・外科). 新版 アフェレシスマニュアル - 難治疾患の治療革命 -, 日本アフェレシス学会 編, 秀潤社, 東京, 2004 年, p.398-403.

再生医療とアフェレシス. 川村明夫(札幌北榆病院・外科). 新版 アフェレシスマニュアル - 難治疾患の治療革命 -, 日本アフェレシス学会 編, 秀潤社, 東京, 2004 年, p.414-417.

総説・特発性血小板減少性紫斑病. 笠井正晴(札幌北榆病院・内科). 藻岩山麓ジャーナル 4: 4-7, 2004

内シャントバルーン拡張後の腔内照射の効果～再狭窄予防を目的として～. 久木田和丘, 堀江 卓, 坂田博美, 玉置 透, 目黒順一, 米川元樹, 川村明夫(札幌北榆病院・外科). 藻岩山麓ジャーナル 4: 8-12, 2004

末梢血幹細胞(CD34 陽性細胞)を用いた血管再生治療. 堀江 卓, 川村明夫, 本望 聡, 安部美寛, 江川宏寿, 池田 篤, 津田一郎, 飯田潤一, 坂田博美, 小野寺一彦, 玉置 透, 久木田和丘, 目黒順一, 米川元樹(札幌北榆病院・外科). 札医通信 No.445, p.4-5, 2004

末梢血幹細胞移植. 笠井正晴, 小林直樹(札幌北榆病院・内科). 今日の移植 17(1): 46-50, 2004

腎癌を除く悪性腫瘍. 増子佳弘, 久木田和丘, 米川元樹, 川村明夫(札幌北榆病院・外科). 日本臨牀 62 巻増刊号 6, 血液浄化療養(下), p.395-399, 2004

末梢血幹細胞による血管再生治療. 堀江 卓, 今村恵美, 江川宏寿, 池田 篤, 津田一郎, 飯田潤一, 坂田博美, 玉置 透, 久木田和丘, 目黒順一, 米川元樹, 川村明夫(札幌北榆病院・内科). 腎と透析 57 巻別冊, ハイパフォーマンスメンブレン 2004, p.12-16, 2004

透析患者の足病変治療最前線 末梢血幹細胞を用いた血管再生治療. 堀江 卓, 川村明夫, 久木田和丘(札幌北榆病院・外科). 透析ケア 10(7): 693-694, 2004

英文

2004 年

Mediastinal emphysema and bilateral pneumothoraces with chronic GVHD in patients after allogeneic stem cell

transplantation. Toubai T, Kobayashi N, Miura Y, Ogawa T, Imai K, Ogasawara M, Kiyama Y, Higa T, Kasai M (Dept. of Hematology, Sapporo Hokuyu Hospital), Tanaka J, Imamura M (Dept. of Hematol. & Oncol., Hokkaido Univ), Honda T (Dept. of Respiratology, Sapporo Hokuyu Hospital). *Bone Marrow Transplantation* 33: 1159-1163, 2004 .

Molecular analysis of T-cell repertoire in patients with graft-versus-host disease after allogeneic stem cell transplantation. Tsutsumi Y, Tanaka J, Miura Y, Toubai T, Kato N, Fujisawa F, Imamura M (Dept. of Hematol. & Oncol., Hokkaido Univ.), Toyoshima N, Ota S, Mori A, Yonezumi M, Chiba K, Kondo T, Hashino S, Asaka M (Third Dept. of Int. Med., Hokkaido Univ.), Kobayashi R (Dept. of Pediatrics, Hokkaido Univ.), Masauji N (Hakodate City Hospital), Kasai M (Sapporo Hokuyu Hospital). *Leukemia & Lymphoma* 45(3): 481-488, 2004 .

Effect of graft-versus-host disease on the outcome of bone marrow transplantation from an HLA-identical sibling donor using GVHD prophylaxis with cyclosporin A and methotrexate. Kanda Y, Izutsu K, Hirai H (Univ. of Tokyo Hospital), Sakamaki H (Tokyo Metropolitan Komagome Hospital), Iseki T (Institute of Medical Science, Univ. of Tokyo), Kodera Y (Japanese Red Cross Nagoya First Hospital), Okamoto S (Keio Univ.), Mitsui H, Hiraoka A (Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Disease), Iwato K (Hiroshima Red Cross Hospital & Hiroshima Atomic Bomb Survivors Hospital), Hirabayashi N (Nagoya Daini Red Cross Hospital), Furukawa T (Niigata Univ. Medical Hospital), Maruta A (Kanagawa Cancer Center), Kasai M (Sapporo Hokuyu Hospital), Atsuta Y, Hamajima N (Nagoya Univ), Kawa K (Osaka Medical Center and Reserch Institute for Maternal and Child Health). *Leukemia* 18: 1013-1019, 2004 .

Cytolytic activity and regulatory function of inhibitory NK cell receptor-expressing T cells expanded from granulocyte colony-stimulating factor-mobilized peripheral blood mononuclear cells. Tanaka J, Toubai T, Tsutsumi Y, Miura Y, Kato N, Imamura M (Dept. of Hematol. & Oncol., Hokkaido Univ.), Umehara S, Kahata K, Mori A, Toyoshima N, Ota S, Kobayashi T, Asaka M (Third Dept. of Int. Med., Hokkaido Univ.), Kobayashi M (Institute for Genetic Medicine, Hokkaido Univ.), Kasai M (Sapporo Hokuyu Hospital). *Blood* 104(3): 768-774, 2004 .

Durable response but prolonged cytopenia after cladribine treatment in relapsed patients with indolent non-Hodgkin's lymphomas: Results of a Japanese Phase II Study. Ogura M, Morishima Y, Kobayashi Y, Uike N, Sugai S, Chou T, Kasai M, Miura I, Murayama T, Matsuno Y, Nakamura S, Mori S, Ohashi Y, Tobinai K (Cladribine Study Group). *International Journal of Hematology* 80: 267-277, 2004 .

主催学会報告

第 11 回日本血液代替物学会年次大会

(平成 16 年 7 月 13, 14 日 北方圏センター)

大会長 川 村 明 夫

第 4 回日本統合医療学会

(平成 16 年 7 月 31, 8 月 1 日 北海道大学学術交流会館)

大会長 川 村 明 夫

第 11 回日本血液代替物学会年次大会報告

事務局長 中 尾 康 夫

平成 16 年 7 月 13 日(火) ~ 14 日(水)の両日にわたり、第 11 回日本血液代替物学会年次大会を、川村明夫理事長を大会長として、北海道庁別館 12F 北方圏センターにて開催いたしました。全国から多数のご参加を頂き、特別講演、招待講演を含め演題数 38 題、参加人数 124 名と盛会裏に学術大会を終了いたしました。今回は、全演題を PC プレゼンテーションで行う事としましたが、会場側に十分な設備があり、演題数も適切であったため、学会管理を外注することなく、病院スタッフの多大な協力で大きなトラブルも無く無事に終了いたしました。

懇親会は、第一日目の夕刻、小樽市銭函「中村番屋」にて開催しました、会場は海に面したベランダで、快晴であればきれいな夕焼けが見られる予定でしたが、少し曇り気味であったのが残念でした。会場は定員 30 名程度のところへ 2 倍の人数が入り込み床が抜けてしまうのではとの心配を余所に夜が更けるまで海の幸を堪能しました。

第4回日本統合医療学会報告

大会長 川 村 明 夫

日本統合医療学会は西洋医学のみならず代替医療を含め医療と健康を包括した今後の医療形態を考え実践していく学会です。すでに世界各地で統合医療に取り組んでいるアメリカのワイル博士、クローネンバーグ博士や中国、韓国、インドなどからの専門家を集めた「国際統合医療専門家会議」も東京で2004年1月に行われています。第4回日本統合医療学会を2004年7月31日(土)、8月1日(日)の2日間のわたり札幌市の北海道大学学術交流会館で主催させていただきました。今回のテーマは「西洋医学と代替相補伝統医療のあらたな共存の道」で、西洋医学と代替医療を結ぶ橋渡しとなるようにしました。本学会が札幌で行われるにあたり、日本代替・相補・伝統医療会議(JACT)北海道支部会(宮崎保支部長)の御協力を得て合同開催とさせていただきました。参加人数は300名を超える参加者があり、地元からも多くの御参加をいただきました。特別講演が5題、シンポジウムが3題、一般演題が24題、国際統合医療専門家会議報告、ランチョンセミナー2題さらに一般市民向け公開講座として特別講演とシンポジウムが行われました。統合医療の今後の展開や教育のあり方やエビデンスの確立など具体的な方法の提示や、海外の現状報告もなされました。「伝統医療」をテーマとしたシンポジウムもなされ、WHOでも伝統医療として認知された柔道整復術、東洋医学である鍼灸や漢方、薬剤などの観点から活発な討論がなされました。市民向け公開講座のシンポジウムでは「日本はなぜ世界一長寿なのか」が取り上げられた。長寿と日本食の重要性、公衆衛生学的な観点、体質と遺伝要因、さらに人間の持っている愛が健康に寄与しているなど興味深い講演がなされた。懇親会は銭函の海に面した漁師さんの家で地元の魚介類を味わっていただき、古(いにしえ)の群衆を想いつつ蝦夷の地酒を味わっていただき大変好評でした。今後の統合医療学会発展の礎となる学会でした。ご参加いただきました地元の諸先生にこの場をお借りして心よりお礼申し上げます。

編集後記

病院も住み分けの時代で急性期医療はさらに入院日数の短縮化が要求され、保険医療上の各種請求も在院日数の短縮化に合わせられてきています。また各学会主導の専門認定病院制や病院機能評価機構による評価など星印マークはどんどん増え、当院もそれを乗り越えてきておりますがハードルもより高くなってきています。当院も専門医、認定医を養成しつつ、臨床医研修病院として若いドクターの教育、指導を行っています。そのような中で思うのは患者さんが安心して医療を受け入れるためのアメニティを良くするのが第一義ですが、付けをすべて病院に丸投げするのではなく患者さんへの医療に直結する病院の安定運営をできる制度、方策の必要性です。先進医療のみならず適切な医療を遂行するための将来に対する設備投資をできる余力をつくれる「病院のアメニティ」の必要性です。そのための1つにはこれだけ専門性をとり医師に学会参加や認定医を取得、維持させる制度を強制化しているわけですから専門医のドクターフィー創設などがあげられます。個人の努力で病院を支える時代は終わっています。機能を発揮できる「病院のアメニティ」確立の制度上の保障が望まれます。そのような中での努力の軌跡であります昨年度の歩みをお届けします。

札幌北楡病院 副院長 笠井正晴

(医)北楡会誌 第十八巻

JOURNAL OF HOKUYUKAI VOL.18, 2005

平成 17 年発行

発行者 川村明夫

AKIO KAWAMURA

発行所 特定医療法人北楡会

HOKUYUKAI

〒003-0006 札幌市白石区東札幌 6 条 6 丁目

HIGASHISAPPORO 6-6, SHIROISHI-KU, SAPPORO 003-0006

TEL (011) 865-0111